

抄録

小型底びき網における再放流ヒラメの生存率

平川英人・田中利幸

Survival Rates of Released Japanese Flounder Caught by Small Trawlers

Hideto HIRAKAWA・Toshiyuki TAKAKA

月刊 海洋, Vol. 29, No. 6 376-379 (1997)

資源管理の方策として全長制限した場合、管理効果を求めるためには、漁獲した後の再放流による生存率の把握が必要となる。本報告では四倉漁業協同組合所属の小型底びき網漁船（12.12～14.0 トン、160 馬力）による試験操業で漁獲された全長 30cm 未満のヒラメを再放流した場合の生存率を求めた。その結果漁獲後 7 日間飼育して、福島県水産試験場内の 1～10 トン実験水槽内で得られた生残率は 43～88 % の範囲内であり、調査全体の平均では 70 % であった。

生存率を高めるために、全長 30cm 未満のヒラメが漁獲された場合にはなるべく早く海に再放流する（本調査結果では 10 分以内）とともに、ヒラメの体表面における損傷を最小限に留めることも重要と考えられ、底曳網の曳網時間を短縮することも重要な方策の 1 つと考えられた。